



民主党練馬クラブ

区政レポート

白石けい子

練馬区貫井育ち、保育士。2007年4月、「保育&介護」の現場から、練馬区議会議員に当選。民主党練馬クラブ所属。

TEL03-3990-3107 FAX03-6421-4108
http://shiraishi-keiko.net
e-mail:info@shiraishi-keiko.net

第6号

2009年3月22日発行

発行

民主党練馬クラブ
練馬区豊玉北 6-12-1
西庁舎6F
TEL 03-3993-1111
内線=7621~5

コラム -column-

区長に訊いた

□「新基本構想・長期計画」は誰のため？

・三十年ぶりに区民と考える「練馬区」の将来像であるが、単に区民に「協働」というかたちを押しつけるのではなく、運営計画に向け区民の声が反映されるような体制はあるのか？

・平成十八年に審議会答申の「(仮称)自治基本条例」の今後の策定予定はあるのか？

・委託・民営化、指定管理者制度など民間力導入をより促進されていくなら、情報を区民の目線で、分かりやすく提供をされていくことが重要と思うが、如何か？

□福祉は地域の人々と共にという施策は：

・「高齢者いきいき健康事業」は、独自財源だからこそ、地域社会への社会参加促進のきっかけとなりうる視点(仮ボランティアポイント制度)の導入も一考と思うが如何か？また、高齢者の「地域就労」については、雇用管理を整備することは必須ではないか？

・高齢者十四万人に向けて、「高齢者がいきいきと暮らすとは何であるか？介護保険制度だけでは無い介護予防対策に向け、様々な事業施策の精査が必要ではないか？

・「介護保険制度」障害者自立支援法の改定が行われるが、現場の利用者・従事者たちの関係改善には、保険者練馬区としての迅速なる対応が重要ではないか？

はどのように考えているのか？

□就職説明会に参加して

2月14日と3月1日の就職説明会を業界人としてのぞいた。

相談は、「福祉始めてですが...」から始まるものが多数のようだった。後は「就職すればヘルパー資格が取れると聞いてきたが」という相談も聞えてきた。広告の解釈の問題だったか。それだけ介護職は一般からはへだたりがあつた？

「職がないから介護へ」と。個人的には「そんなにこの業界は甘くない！」と思うが、不況ほど、良い人材が来るといふジンクスもある。それにしても、「働き手がいない！」と現場が悲鳴を上げた時に、行政がもう少し早い対処をしてくれて良かったのではないかと。人口が70万人を突破した練馬区。独自の「手」が望まれる。

(業界人Y)

□助けて！練馬区さん？

私の友人から、相談を受けた。ある訪問介護サービスのヘルパーたちが苦しんでいたとのこと。聞いてみると、細かく書くのがためらわれるような従事者への暴言暴挙。管理者にも相談できないまま、経営者に事態の周知がされたときには、何人かのヘルパーは精神疾患に見舞われていたとのこと。そこで、経営者もヘルパーを守るべく利用者による契約の解除とこれまでの利用料を請求する旨話し、スムーズな解決を望んだが、未だ、解決には至らず。

何故、保険者である練馬区は、利用者との直接契約だから関係ない、というスタンスでいるのでしょうか。こうなる前に解決の手立てがあつたはず...と感じてならない。これからは、「事業者の問題とせず、ぜひとも前向きに、処遇困難者への対応やヘルパーの人權の守りに、練馬区の姿勢を見せてほしいものです。」

メールにて

一筆啓上

平成二十二年第一回定例会

(平成二十二年年度予算特別委員会)を終えて

◆ 今定例会は、平成二十二年年度予算として、「緊急経済対策」を重点事業に、基金の取り崩しを図り、中小企業向けの「スーパーサポート貸付」・「介護人材を含む緊急雇用創出支援事業」等が審議されました。

◆ わが民主党練馬クラブは、平成二十二年年度予算に向けて、真摯に審議を行い「百年に一度の経済危機だから、あえて変わらない予算で立ち向かいたい」との志村区長の姿勢に対して、具体的には、

一 経済状況に関わらず予算額が、近年増加し続けており、予算の肥大化に歯止めをかける必要性があると思われ、いかがかか。

二 前例やしがらみ、既得権益にとられ、非効率ないし無駄な事業を温存し続けていると思われ、「官から民

information

参議院議員・大河原まさこさんと語る!

——区政・都政・国政の三元連携で——

「働き手・経営側に立った介護環境を作ろう」

介護等職場の従事者の人権等を考える研究会を行います。

いままであまり触れられなかった切り口から介護の今後を考えていきます。ふるってご参加くださいませ。

5月開催予定。

参加者 参議院議員 大河原まさこ
区議会議員 白石けい子



今後の活動スケジュール

- 4月6日 小学校入学式
- 4月7日 中教委員会
- 4月21日 23日 総合計画等特別委員会
- 4月22日 文教委
- 4月26日 総務委員会
- 5月9日 練馬こどもまつり
- 5月15日 総合計画等特別委員会
- 5月19日 情報公開及個人情報保護委員会
- 5月19日 文教委員会
- 6月1日 第2回定例会(人事議会)

〔編集後記〕

▲議会活動をしていると、大きな数字に慣れた感覚に陥る。これは危険。三千億余円は大変な金額。年間国家予算が百億円の小国が世界にはいくつも。区予算が万が一にも無駄に使われれば、世界の何処からか悲鳴が...
▲改めて議会のお運びをお願いしたい。傍聴を感じられたことをお伝えいただきたい。それをエネルギーとして、お目付けの仕事に邁進していきたい。

へを推進し、行政のスリム化を打ち出していないながら、それに逆行する環境が存在するのはなぜか。

三 財政における中長期的な見通しが示されていないまま、早急な対応が迫られる「医療・介護・福祉」の施策において、予算・対策をどのようにお考えか。

という三つの疑問点について、わが会派は、質疑を通じて問題提起してきました。

これからも、区政に対してイエローカードを提出していく所存です。そして、「生活の声」を区政へ届けてまいります。皆様も、是非、議会へ、委員会へ足を運びいただき、区政の現場に立ち会っていただきたいものとお切にお願い申し上げます。平成二十二年第一回定例会の報告とさせていただきます。

目次

特集

「協働」について緊急座談会!

区長に訊いた

◆「新基本構想・長期計画」は誰のため？

◆福祉地域の人々と共にという施策は

メールにて一筆啓上

◆就職説明会に参加して

◆助けて！練馬区さん？

今後の活動スケジュール

◆参議院議員 大河原まさこ氏と語る

◆区政・都政・国政の三元連携で

NPOの現場が語る 「本当の協働とは何か？」

区の将来を設計する「新基本構想」が動き出した。官から民へ。地域力でかゆいところにも手が届くセーフティネットを。そのポイントとなるのが、様々な分野で活動しているNPO。区は「是非協働を」と。しかし、それはどこまで現実で即したもののなのか？ 第一線でNPOを引ッ張ってきた、三氏が緊急集合。「協働」を語った。

NPOは地域力アップの原動力

白石 「官から民へ」……様々な分野で、委託・民間化が始まっていますが、行政と民間の物差しのギャップもありです。今、「新基本構想」の取り組みで、地域力アップのひとつに、NPOへの期待もあるようですが、経営とサービスのバランスが取れずに苦戦しているNPO



練馬区議会議員
NPO法人 ケアステーションほかほか
理事長 白石 恵子

高松に保育と介護の融合施設を設立し、現在、区議会議員として活動している。

「自由な発想と行動力を持った団体に任せるべきです。」

も多く、練馬区もどのようにしたらよいか悩んでいるようです。
坂本 経営がうまく行っているのはほんの一握りで、区の直営的なNPOだけです。うちも『委託』を受けて活動したことがありますが、物差しの違いにぶつかって、苦しい出だけが残りました。
長島 地域の中でNPOは、まだまだ難しい面があります。活動に対する問合せはたくさん来ますが、NPO＝ボランティアという認識も強いようで、私の活動も最後に「お金はかかりませんか？」と確認されて、「実は……、有料かと分かると依頼はされませんでした。
白石 練馬区も「練馬区NPO活動支援センター」を立ち上げ、三年が経過しましたが、大きい成果は見えてきていません。



NPO法人 すみよい街づくり研究会
副理事長 坂本広海氏

高齢社会は若者男女が等しく考え、地域社会と共に知恵を出し合い、夢に満ちた豊富な経験を活かす場。元気なシニアが中心となり、環境にやさしい「すみよい街づくり」のために活動している。

NPOの現場が語る「本当の協働とは何か？」

長島 温度差は私も強く感じています。介護予防の「環」として、「いきがいデイサービス」という委託事業があり、私の団体もプロポーザルしたことがありますが、その時、「こちらは音楽の団体です。よね？」と言われてしまいました。
白石 申込場所が違ふ……というニュアンスですかね？
長島 そのようでした。「音楽工房の」では「デイサービスで「うたごえ喫茶」などの活動を行っていて、音楽が与える効果を確認した上でエントリーしたんですけどね。

真の「協働」とは？

白石 現在、練馬の協働実施状況（参照）があり、行政は、協働の相手を地域の既存団体（町会・協議会……）に任せたいと考えているようです。「新基本構想審議会」では、「既存の団体からだけでは、限界をかんじる……」との意見がありましたね。

長島 そうですね。まず、地域それぞれの人たちが、自分たちのこととして、みんなで考えていく。そして、行政は力を

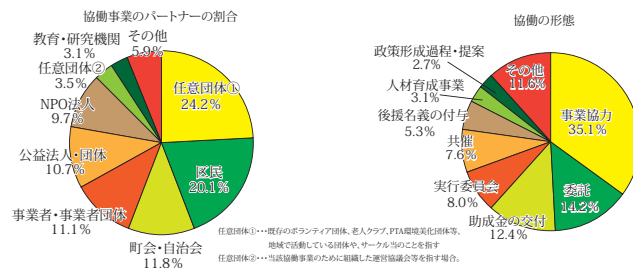
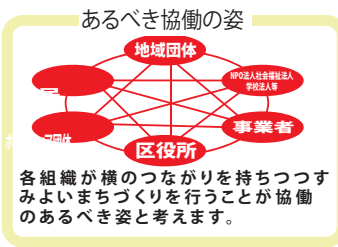
「コミュニティ、協働の成育には最低10年かかるんです。」

提供していくことが、本当の意味での「協働」の成立と言えないでしょうか。現状では「陳情」を含めて、地域への結果に結びついていくのに時間がかかり過ぎているように思います。
坂本 地域の「民・民」間でのコミュニティをというなら、互いの気持ちを受け止め、見守り、そして支援していく状況がほしい。任せきれなくて、途中で口出し、手出しでは育ちませんよ。

白石 自由な発想によるコミュニティ、協働は地域の中で、力として発揮するには十年以上の時間がかかるというわけですね。確かに、行政はそれが待てずにいるようです。行政も人を信頼して自主的な地域からの声にも広く聴き、任せるべきところをはっきりと任せ合う「ゆとり」も必要ということですね。
本日はありがとうございました。

練馬区における協働「力」とは……

地域から生まれた団体が「協働」組織として「力」をつけていくためには、行政と地域とのかけ橋となる活動資金として「NPO等支援基金制度（ファンド）」が必要です。すでに、杉並区・横浜市では、NPO・ボランティア活動および協働の推進に関する条例が制定され、市民の寄付が活動資金助成となり、相互の力となって効果をあげています。練馬区も他の自治体のように、支援金（仮称「市民ファンド」）に向けた寄付控除の税制上優遇措置も必要です。そして、区民や企業に広く宣伝を行い、小さな団体の活性化が、地域の力強いサポーターとなる土壌づくりに向けて、練馬区も制定への協議が重要となるでしょう。



「最後のリスクは民が負うべきではないと思うんですよ。」

坂本 行政は「民間でできることは民間で」と言いながら、いざとなると任せ切れなくなるようですね。任せた責任が自分のところへ回ってくることを嫌がるのかもかもしれません。だから「直営店」のなところへ仕事を振っていくのでしょうか。

白石 民間委託になった駅の自転車管理をされている方から、区から委託に経営が変わったら、報酬が引き下げられ、不満の声が上がりが、多くの声として直訴したら、報酬がまた元に戻ったという報告がありました。

坂本 帳尻は常に末端で合わせようとするわけですよ。リスクを負うのが民ということになります。でも、ある意味、民は黙っていてもいけないということですね。



NPO法人 音楽工房のあ
代表理事 長島潤氏

クラシック音楽の演奏家たちが中心となり、子どもから大人まで楽しめる曲目や演目を選び、生活の身近な場所で活動。地域福祉をテーマとした音楽活動団体。

行政と民間の物差しのギャップ